

平成 24 年度「域学連携」地域づくり実証研究事業 成果報告書

みなとメディアミュージアム連絡協議会

[様式第4号]

文書番号

平成 25年 3月 14日

支出負担行為担当官

総務省大臣官房会計課企画官 殿

(受託者) みなとメディアミュージアム連絡協議会

住所 茨城県水戸市見和 1-430-1

常磐大学人間科学部コミュニケーション学科

中村泰之研究室

氏名 中村泰之 印

## 平成 24年度「域学連携」地域づくり実証研究事業 成果報告書

平成 24年 8月 24日付け契約の平成 24年度「域学連携」地域づくり実証研究事業について、下記のとおり事業を実施したので、契約書第12条第1項の規定に基づき、別添のとおり報告します。

## 事業成果概要版

本実証研究事業は、茨城県ひたちなか市の「みなとメディアミュージアム連絡協議会」と大学が連携し「MMM新企画」を連携大学が支援する形で行われた。

「みなとメディアミュージアム（以下、MMM）」は2009年より当該地域にて開催されている地域活性化を主眼とした草の根型アートプロジェクトである。1）地域活性化を主眼としているところ、2）行政によるトップダウンではなく、地域住民・地域外ボランティアによるボトムアップ型、という点に特色がある。

本実証研究事業の具体的な取り組みとしては、MMMに対して、下記の「MMM新企画」を、連携大学教員・学生が提案あるいは主体的に参加・支援を行った。この提案・参加・支援を通して、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組んだ。

- 1.MMM主催のフィールドワークへの主体的参加（嘉悦大学メディアビジネス論）
- 2.地域のコミュニティカフェ支援プロジェクト（嘉悦大学メディアビジネス論・常磐大学ゼミナール（中村泰之ゼミ））
- 3.地域資産を活用したワークショップ（嘉悦大学メディアビジネス論・常磐大学ゼミナール（中村泰之ゼミ））

本研究の達成された成果としては、下記が挙げられる。

- ・MMM事業の拡大
- ・学会における成果発表（環境芸術学会・電気情報通信学会）
- ・常磐大学における学内研究の実施と授業構想
- ・常磐大学における平成25年度カリキュラム構築（4単位）
- ・嘉悦大学における平成25年度カリキュラム構築（8単位）
- ・平成26年度カリキュラム構築（10単位）

## 域学連携事業意見交流会の実施

### 1、意見交流会の成果

域学連携事業の実施に伴い各団体（みなとメディアミュージアム実行委員会、常磐大学、嘉悦大学、ひたちなか海浜鉄道株式会社、ひたちなか商工会議所、ひたちなか市役所、ドゥナイト実行委員会、おらが湊鐵道応援団）による意見交流会が10月5日、11月9日、ひたちなか商工会議所で実施された。これにより地域の意見や要望を取り入れた事業の実施が可能となった。



第1回域学連携意見交流会

平成 24 年度 10 月 5 日 19:30～21:05

- 1、域学連携事業の説明
- 2、嘉悦大学講師田島悠史による授業カリキュラムの説明
- 3、今後の進め方について

10月20日に嘉悦大学「メディアビジネス論」受講者によるフィールドワークの実施



第2回域学連携意見交流会

平成 24 年度 11 月 9 日 19:44～20:45

- 1、みなとカフェの現状報告、活用方法
- 2、嘉悦大学進捗報告  
10月20日に行われたFWの成果、および学生からの要望
- 3、常磐大学進捗報告  
ワークショップ内容、地元で行われているドゥナイトマーケット（夜市）への参加について
- 4、今後の予定  
嘉悦大学、常磐大学合同合宿の実施

## 1、実施概要

2012 年 10 月 20 日（土）に嘉悦大学「メディアビジネス論」履修者は、那珂湊地域にてフィールドワークを行った。半分が 4 名程度の学生グループでのフィールドワークと、学生全体でのフィールドワークの二部から構成される。前者では「街の標本を作る」というテーマのもと、学生たちは GPS ツールを携帯し、那珂湊の商店街を歩きながら、写真や動画、文章などの記録を行った。フィールドワークに際しては「チェーン店禁止」とするなど、商店街に入り込むような仕組みを考えた。

全体行動のフィールドワークでは 1) 地域のコミュニティカフェである「みなとカフェ」、2) ひたちなか海浜鉄道湊線、3) 地域が毎月開催している夜市「ドゥナイトマーケット」の調査を行った。特に 3) では、地域団体と連携し、ボランティアとして参加した。

大学側のこの試みのメリットは、実践を通して、フィールドワークの手法や地域の現実を学ぶことができる点にあった。地域団体側のこの試みのメリットは、地域外の学生に那珂湊の存在を知らせ、愛着を持たせるという狙いがあった。

## 2、フィールドワークの成果

本フィールドワークは、学生の評価も学習効果も高くその後の別地域の調査などにも活用している姿が観察された。そのため、大学側の狙いはほぼ達成したと考えられる。また後者については、学生の中には自発的に「ドゥナイトマーケット」に参加したことが観察された。そのため、「愛着を持たせる」という点についても、一定の効果があったと考えられる。



図 1 フィールドワークで活用する GPS ツールの説明。



図 2 日の出食堂のおかみさんに、壁にかかっている写真について訪ねる。



図 3 みなとカフェを記録する学生。



図 4 地域で定期的に行われている夜市（ドゥナイトマーケット）を見学。

## 1、実施の経緯

2回の意見交流会を通して、学生のフィールドワークおよび、企画案の作成、地域へのプレゼンを一連の流れで行うため、嘉悦大学、常磐大学の合同合宿が決定した。嘉悦大学からは、「メディアビジネス論」受講生 18 名、常磐大学からは、中村泰之ゼミの学生を中心とした 18 名 + 各大学講師が参加した。

## 2、フィールドワーク1日目

嘉悦大学は10月20日のフィールドワークをふまえ、すでに荒削りではあるが、いくつかの企画案があがっていた。それをより、地域の実情にそったものにブラッシュアップするため今回の合宿では地元の常磐大学が合流し、嘉悦大学常磐大学合同チームがつくられた。班は全部で6つあり、それぞれ1案ずつ計6つの地域活性化案を翌日地元の企業やまちづくり団体に向けてプレゼンする。

那珂湊駅で下車した学生たちは、今回のまちづくりプランの拠点となる「みなとカフェ」に行き、この合宿の目的を把握し、それぞれの班に別れフィールドワークを開始する。嘉悦大学の学生による草案は地域民や常磐大生からのアドバイスをもらいながら練られていく。



図1 バスで那珂湊駅に向かう嘉悦大学、常磐大学の学生たち。



図2 那珂湊駅前で下車し、目的地へ向かう。



図3 みなとカフェで趣旨説明を行う  
嘉悦大学講師田島悠史。



図4 那珂湊でFWを行う嘉悦大学 +  
常磐大学の混合チーム。



図5 自分たちのつくった企画をまず  
地元の常磐大学の学生へ向けて  
プレゼンする嘉悦生。

フィールドワークが終わった各班は金上駅の宿舎に移動し、日中得た情報を整理し、役割分担をして、明日のプレゼンのための資料制作にとりかかる。



図6 宿舎ロビーにてこれから行うべき作業の確認。

### 3、フィールドワーク2日目

各班、制作した資料を持って、ひたちなか市那珂湊勤労青少年ホームに移動し、17:00からの本プレゼンに向けリハーサルを行った。各大学講師によるアドバイスを事前に聞くことで、より中身のある企画にすることが狙いである。このリハーサルを経て、各班の内容はほぼ固まった。



図7 青少年ホームを借りリハーサルを行う。



図8 各大学講師による改善点等の講評。

#### 4、地域プレゼン

各班の発表はひたちなか商工会議所の大会議室で行われた。傍聴者はひたちなか海浜鉄道株式会社社長吉田千明、ひたちなか市役所観光振興課松本竜宝ら、みなとメディアミュージアム連絡協議会の関連団体が集まった。傍聴者である地域関係者は学生からのユニークな提案に刺激をうけ、発表には質問やあらたな提案が飛び交い会場は活発な意見交換が行われた。



図9 那珂湊にある飲食店の焼きそばランキングをつくる提案。



図10 会場には、まちづくり団体など多くの傍聴者が集まった。



図11 地域の方からプレゼンの感想とともに新たな提案がなされた場面も。



図12 参加学生からも活発な意見が飛ぶ。



図13 みなとカフェをあらたなコミュニティスペースとして再生する試み。



図14 プレゼンがおわったあとも、学生と地域の人たちによる意見交流会が行われた。

## 5、地域プレゼンで発表された6つの企画案

- 1、観光案内所としてのみなとカフェ
- 2、つながりを強化するコミュニティスペースとしてのみなとカフェ
- 3、みなとカフェを使った紅茶染めワークショップ
- 4、焼きそばランキング～みなとカフェを通して～
- 5、みなとカフェ × 地元高校
- 6、みなとカフェをライブハウスに！～みなと SWELL SPACE ～

## 6、嘉悦大学常磐大学合同合宿の成果

本取り組みの成果として、6企画が具体化され、地域関係者の前で発表された。

その中でも2企画「焼きそばランキング」「紅茶染めワークショップ」は関係者からオファーがあり、「紅茶染めワークショップ」は2012年12月15日に実施された。また「焼きそばランキング」についても、2013年3月現在、実施する方向で話が進んでいる。MMMは夏の企画がほとんどであり、冬期における活動の少なさが課題としてあった。本取り組みを通して、冬期にMMMが関わる企画が生まれたことは非常に大きい成果と言える。

その他の成果として、地域外の学生に対して、当該地域への愛着を育むことに成功した点が挙げられる。12月実施の「紅茶染めワークショップ」では、企画者以外の履修者（3名）が「那珂湊が好きだから」という理由で、協力者として当該地域に赴きワークショップの実現に協力を行った。

教育的成果としては1) 地域住民とのコミュニケーション、2) 実社会でのプレゼンテーションとディスカッション、3) 他大学学生とのコラボレーション、4) 実際の問題解決に直結するフィールドワーク、が挙げられる。このような機会は通常のカリキュラムでは難しい。嘉悦大学では「特色ある取り組み」として本学ウェブサイトにて紹介された (<http://www.kaetsu.ac.jp/13-02-04-01.html>)

## ワークショップの実践 1

2012 年 12 月 15 日(土) みなとカフェ

### 1、実施内容

合同合宿で提案された「紅茶染めワークショップ」および、みなとメディアミュージアム実行委員会で継続開催している「ジェルキャンドルワークショップ」をそれぞれの大学教員の指導のもと実施した。「紅茶染めワークショップ」はみなとカフェで開催され、33名の来場者があった。嘉悦大学、常磐大学の学生が講師となり、地元の参加者と交流を行った。「ジェルキャンドルワークショップ」はドゥナイトマーケット会場で開催され、常磐大学の学生が講師となり、地元の参加者と交流を行った。



図1 会場となるドゥナイトマーケットはひたちなか市那珂湊地区で月1で開催されている夜市である。



図2 参加者は染められた砂や貝殻で透明なキャンドルをつくる。



図3 紅茶染めワークショップはみなとカフェで行われた。



図4 クリスマスカードを紅茶で染める。

### 2、ワークショップの成果

紅茶染めワークショップはみなとカフェ活性化プランの一つとして行われ、大学側としてはワークショップを主催する経験を通じた学生のコミュニケーション力の向上などを期待していたが、積極的に参加者とコミュニケーションを取るなどの成果が見られた。地域団体側としては、イベントを通して地元住民への更なるアピール効果が期待されたが、概ね達成できたと考えられる。ジェルキャンドルワークショップは既に地元の要請で複数回開催されている。今後も各大学の学生がみなとメディアミュージアム実行委員会をサポートする形で継続して行う予定である。

## ワークショップの実践 2

2013年2月3日(日) 13:00~17:00 釈迦町集会場

### 1、実施概要

造形作家のマスダユタカ氏を招き、立体写真(フォト・ポップアップカード)のワークショップを行った。マスダユタカ氏は MMM 実行委員会が主催しているアートイベント「みなとメディアミュージアム」に 2012 年夏に出展し、鉄道車内に従来の四角いフレームに収まらないさまざまな形態の写真作品を展示し、来場者を魅了した。今回のワークショップは、マスダユタカ氏のような写真作品をつくらせてみたいという地元の声と、プロのモノ作りの舞台裏に関わり勉強したいという学生の声によって実現したものである。ワークショップの素材になる 2 種類の工作キットはマスダユタカ氏が事前にひたちなかでフィールドワークを行い、それぞれひたちなか海浜鉄道の車庫(図 1)、四郎介稲荷神社(図 2)をモチーフに制作したものだ。



図 1 工作キット完成見本①

ひたちなか海浜鉄道の車庫がモチーフになっている。



図 2 工作キット完成見本②

こちらは那珂湊駅近くの神社がモチーフ。

### 2、参加者データ

参加者は 22 名(小学生 5 名、中学生 5 名、大学生 5 名、30 代 1 名、40 代 3 名、50 代 3 名)

マスダユタカ氏をサポートする学生スタッフは常磐大学中村泰之ゼミナールの学生と嘉悦大学メディアビジネス論受講者。場所はひたちなか市釈迦町にある集会場で行われた。



図 3 那珂湊駅から徒歩 5 分の場所にある集会場。



図 4 集会場室内風景



図 5 造形作家のマスダユタカ氏(左)とスタッフ(右)

### 3、フォトポ制作

参加者にははじめに無地のフォト・ポップアップカードを3点制作してもらい、基本的な立ち上がり方を理解してもらう。立ち上げ方には何種類も手法があり、ここを踏まえないと写真作品の制作に入っても完成系をイメージすることは難しい。これは大人であっても同様である。

基本的な構造を理解したら、2種類の工作キット（車庫と神社）から任意のものを選び、制作に入る。

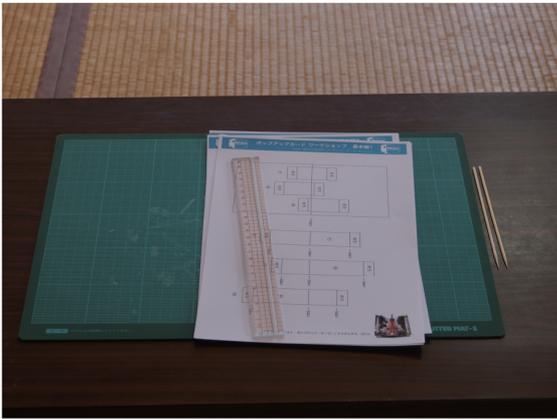


図6 使用するものは、定規、カッター、竹串、カッターマット、図面がプリントされた工作用紙3枚。



図7 もっとも基本的な構造。ここから少しずつ複雑な形へすすんでいく。

立体の立ち上げは、大人でも一筋縄ではいかないため、完成したときの喜びもひとしおである。

また地域の人にとって、このワークショップは普段見慣れているまちの風景が立体写真になったことへの新鮮な驚きがあり、ワークショップ中に完成品を一目見ようと、商店街の人や鉄道会社が見に来る一幕もあった。



図8 完成した自分の作品はおみやげとして持ち帰ることができる。



図9 機関区の車庫をモチーフにしたものの方が難易度は高い。

### 4、フォトポワークショップの成果

本ワークショップは地域住民、アーティスト、学生の協働によって実現した。終了後に行ったアンケートでは、95%の参加者が内容に満足したという結果が得られた。また地域とアーティストと大学生の接点をつくることで、この写真作品を使った新しいまちおこしのアイデアを提案する地元民もあらわれた。

学生にとってもこのようなプロのワークショップにスタッフとして参加することで、手法を間近で学ぶことができ、自身の研究や活動に生かすことができる。マスタユタカ氏と地域と大学生にワークショップは、さらに改良を重ね、今後も継続して行っていきたいと考えている。

嘉悦大学の web サイトに掲載されたメディアビジネス論最終発表の様子  
(<http://www.kaetsu.ac.jp/13-02-04-01.html>)



嘉悦大学  
KAETSU UNIVERSITY

交通・アクセス | お問い合わせ | English

HOME > 2012年度のニュース > 13/02/04 1月23日(水)に「メディアビジネス論」の最終発表会が行われました

### ニュース

#### 1月23日(水)に「メディアビジネス論」の最終発表会が行われました

13/02/04

1月23日(水)に「メディアビジネス論(担当:田島悠史)」の最終発表会が行われました。「メディアビジネス論」はメディアビジネスの変遷を前提に「現在のメディア戦略の実践」を行います。授業では、茨城県ひたちなか市や常磐大学などと提携し(※1)、現地で2度のフィールドワークを通して、コミュニティカフェ「みなとカフェ」の情報メディア戦略を企画・提案し、今回はA1サイズのパネルを使い展示形式で発表を行いました。

「みなとカフェ」は観光客と地域の人びとの架け橋になるカフェをコンセプトに運用していましたが、さまざまな問題点や課題も見つかり今後の運営に頭を悩ませていました。

履修者たちはまず2012年10月に第1回目のフィールドワークに訪れました。実際にまちを歩いてみると、「若い人がなかなか見当たらない」「那珂湊駅に着いてから、どこに行けばいいかわからなくなってしまう」など、地域外の学生特有のアイデアのヒントが生まれてきました。

ソーシャルメディアなどの情報発信の事例を学んだ上で、グループにわかれ第2回目のフィールドワークに出かけました。2012年11月17～18日、1泊2日の合宿形式のフィールドワークでは、常磐大学の学生たちと一緒にアイデアを企画にまで落とし込み、翌日朝には中間発表、夕方からは地域の人びとを招待した最終発表と密なスケジュールのなかで、パソコンにぎりぎりまで向かいながらプレゼンテーション資料やプロトタイプ製作を行いました。



「若い人たち呼び込みたい」と考えたグループは、ライブハウスとしての運用、高校との連携事業を企画。「総合案内所としての新たな意味を持たせたい」と目標をたてたグループは、その目標に合わせて看板や地図の製作を提案。「外部への発信を」をコンセプトにしたグループは、那珂湊の名物焼きそばをランキングにする企画を考え、イメージ映像を上映しました。「ここで人がつながれる場所になりたい」という思いを持ったグループは、お祭りへの参加・カフェを利用した教室企画を考えました。また、カフェを舞台にワークショップの企画を考えたグループは、2012年12月に再度那珂湊に赴き、地域の方の協力を受けながら実践されました。

今回の最終発表では履修していない学生や先生方にも数多く来場いただき、グループの成果を発表する機会となりました。実際に地域におとずれ、肌でそこを感じながら得た実践知は細やかな企画への道筋ともなり、その場で「まとめる」というフィールドワークの体力を身につけるものへ繋がったように思います。



※1 この授業は総務省「域学連携」地域づくり実証研究事業の支援を受けています。

このページの先頭へ

プライバシーポリシー | サイトマップ | 卒業生の方へ | かねつ有明中・高等学校について

©2009-2012 Kaetsu University

平成 24 年度「域学連携」地域づくり実証研究事業成果報告書添付資料②

本事業の成果により、平成 25 年度より嘉悦大学にみなとカフェを使った新科目  
(プロジェクト科目と田島ゼミナール)の開講が決定した。



## Press Release

平成25年2月19日  
広報室

### ～次世代の外食産業を担う人材を育成～

#### 嘉悦大学ビジネス創造学部と「プロジェクト科目」の提携をします。

株式会社プロントコーポレーション(本社:東京都港区 / 代表取締役社長:竹村典彦 以下 プロント)は、嘉悦大学(所在地:東京都小平市 / 学長:赤澤正人)ビジネス創造学部と提携し、フードビジネスを通じて次世代を担う人材育成を目指した授業を共同で実施します。

嘉悦大学ビジネス創造学部は、社会でのビジネス経験と講義による知識・スキルの習得を組み合わせた「実践重視」の新しいタイプの学部で、社会で役立つ実践力・即戦力を身に付けるための教育プログラムを実施しています。「プロジェクト科目」には、『フードビジネス研究会』の категорияがあり、プロントは、カフェとバーの両方が学べ、全国でチェーン店舗展開している外食としての実績が評価されました。またプロントとしては、次世代の外食産業を担う人材育成に寄与し、大学の実験的教育技術をプロントの人材育成に活用できるとして、この度の提携に至りました。

『フードビジネス研究会』の学生は、2014年1月を目途に、プロントでの実習経験、習得した知識・スキルによって、フードビジネスを起業し運営を行うことを目標とします。

今後もプロントは、産学連携による、実践的な教育に取り組み、外食産業を担う人材を育成してまいります。

#### 提携概要

【提携大学】嘉悦大学 東京都小平市花小金井南町2-8-4

【提携期間】平成25年3月5日～

#### 【提携概要】

嘉悦大学では一般教養、マーケティング理論等仕事に役立つスキルなどの講義を行い、プロントでは、現場で必要となる専門スキルや実践的な業務で習得できるリーダーシップや協調性を学びます。

#### 【提携目的】

次世代を担う人材の輩出を目指す同大学の考えに共感、プロントも外食産業の将来を担う人材を育成することで社会貢献ができ、また、アカデミックな観点から教育のあり方を学べ、従業員教育のブラッシュアップとなると考えました。

#### 【今後の展開】

インターンシップ期間として基本知識習得、4月から本格的にカリキュラムを開始し、年間を通じて大学と連携してプロジェクトを推進します。成果と課題を見極め、来年以降も継続して実施できるよう取り組んでいきます。

本件に関するお問い合わせ先  
(株)プロントコーポレーション 広報室 担当 廣瀬  
東京都港区港南1丁目8番27号 日新ビル  
TEL:03-6718-6524(部代表) FAX:03-5769-8510 mailto: kouhou@pronto.co.jp

## 『フードビジネス研究会』年間スケジュール

### ■2013年3月5日(火)～22日(金): インターンシップ期間

職場体験前の準備期間として研修を実施する

- ①オリエンテーリング
- ②フードビジネス、プロントに関する理解
- ③フード業務に関する理解
- ④店舗顧客目線による分析、⑤目標設定

### ■4月2日～5月31日: 店舗体験学習 (フェーズ1)

店舗入店研修を実施。現場に慣れることからスタート。

職場: 2名1組、5店舗に分かれて実習

入店: 平日週2回、希望者は一定レベルまで任意入店可

### ■6月1日～7月31日: 店舗体験学習 (フェーズ2)

店舗マネジメントコース、商品開発コースに分かれる(但し共に店舗入店)

◎店舗コース: 週1回入店 ホールサービス実践

◎開発コース: 週1回入店 キッチン実践

### ■8月～9月 : カフェ運営実践 (フェーズ1)

夏期限定カフェで(茨城県ひたちなか市)学生による店舗運営を実施。プロントは、経営状態をチェックしてアドバイスします。

### ■9月～10月: 体験学習

店舗マネジメントコースは店舗で社員業務、商品開発コースは本社で商品開発業務を実践、商品開発コースは、研修最終にプレゼンテーション実施予定

### ■11月～12月: カフェ運営実践(フェーズ2)

地域と提携し、大学で街中(未定)の実店舗の運営をプランニング、学生運営で実際にビジネスを体感させる。プロントは、経営状態をチェックしてアドバイスします。

